俳林良材集

秋上

第五

春夏秋冬
八巻之内

へ 5
1257
5

へ5
1257
5

雙雀菴水壺翁撰

俳林良材集 秋部 二冊

書林 金生堂

序

梁蛻巖嘗論俳諧曰紈袴子弟市井富豪無秦令而不挾詩書非騷徒而尚貪泉刀苟無俳諧殆走肉矣真可謂知言矣蓋和歌之有俳諧猶詩之有詞曲也寓

雖手徒托顏手俾目中無不可
狀之景心曲無不可說之情上可
以告玉皇天將之可以諭牙儈
屠兒豈能藝林所英乎獨識紈
袴子弟市井富豪卒皆不辨金
根鶉鷄杜撰膠造夜郎自大往往

使人噴飯滿案此雙崔嵬所
以編良材集歟今夫大匠指
揮衆工也必分材之方圓脩短
標記某為某為桷某為榱闌
居楔而後衆工不失其叙可以
造亭臺館榭焉雙崔嵬所為

亦大逕之術也耳矣自今以往
紈袴子弟市井富豪吟嘯風月
吐攄情懷將有輪奐改觀者則
雙雀菴之乎功於俳諧寧為淺
少哉於是余不拒其懇請漫弁
蕪言於簡首

安政六年己未徂暑月
訥庵幽人撰
遷喬逸史書

左脇裕齋刀

秋之部題目錄

乾坤之部

七月　一　文月　一　立秋　二　七夕の秋
初秋　三　殘暑　〃　秋の初風　〃　秋風
七夕　五　星合の雷　〃　星迎　〃　星祭
星合　〃　二の星　〃　星の糸　〃　星の糸
織星　七　星の契　〃　天の川　〃　妻迎舟　八
靜の稿　〃　二星の座形　〃　秋去衣　〃　乞巧奠
靜の糸　九　立祭　〃　乞巧針　〃　貸ふ袖
硯洗　〃　七夕の池　〃　梶の葉　〃　芋の露
年ノ渡り　十　涵虛雨　〃　七夕鵲　〃　中元　十一
踊　十七　荒火　十九　蘭力　廿　二百十日
霧　〃　霧　〃　稿妻　廿一　殘暑
初嵐　〃　月よ入　〃　渡り　廿二　殘暑
扇星　〃　紫薇星　廿三　雲霧の節　廿九　秋の空　四十一
秋の月　〃　秋の山　〃　秋の雲　〃　秋の空
八月　四十二　八彩　〃　絵灯籠　〃　二日月　四十三
三日月　〃　初月　〃　舟の妻　〃　白雲の長　〃

天中の月　〃　名月　四十五　秋の月　四十六　くふの月　〃
月七宵　〃　月見　四十七　月の雲　〃　月の雨　〃
十六夜　〃　居待月　〃　秋の月　〃　秋の雨　〃
立田姫　四十九　望月　六十五　初汐　〃　秋の霧　四十八
九月　七十　長月　〃　秋の雁　七十二　ぶしの四一　〃
後の月　七十四　十三夜　七十七　雲峰の若　七十八
時しぐれ　八十九　寒雲　〃　寒時雨　〃　寒空　〃
秋の雲　〃　紅葉　〃　夜寒　〃　霧空　〃
くもりなき　〃　うそぶき　〃　冬近　〃　野鳴　〃
雲絵　九十三　秋深　〃　冬の秋　〃　冬の秋　〃
竹秋　〃　秋雪　〃　九月雪　〃　長夜　〃
秋の寿　〃　秋の雨　六十九　秋の寿　〃

植物之部

撫子　三　一葉　四　蓮柳　十三
末摘　廿三　竹の花　廿四　蓮の花　〃
男郎花　〃　萩の花　廿五　萩の花　〃　萩屋　廿六
葉　〃　蓮の葉　〃　蓮蕉　廿七　宮車の花　〃
桔梗　〃　大子竹　廿八　萩　〃　蘭力竹　〃

葛　〃　雁来紅の花　廿九　雁来紅の花　三十　茶種竹　〃
乙切竹　〃　朝寒竹　〃　葛竹　〃　蓮の実飛　〃
苔蓆の花　〃　兎花　〃　紀　〃　世一　写経の花　世二
糸瓜　〃　撫　〃　桔梗の実　〃　写経の花　〃
槐の花　〃　ときの四　〃　実のもやもや世　〃　蘭菊　〃
八神の葉　四十九　芙蓉　五十　未摘花　〃　蘭菊　〃
紫蘇　〃　蕎　〃　寒竹　〃　尾花　〃　紫苑　〃
花生　〃　芭　〃　芭　〃　蓮特　〃　芭蕉竹　〃
苅萱　〃　茅　〃　煙　〃　蔦　〃　鶏頭竹　〃
牡丹花の花　〃　紫　〃　蔦　〃　鶏頭花　〃　蔦の実　〃
花煙　〃　秋尚紫　廿三　蔦　〃　鶏頭　〃　苗秀の実　〃
金剛子　〃　生薬　〃　鶏頭　〃　蔦の花　〃　苗秀の実　九十九
生ものの花　〃　長引花　〃　鶏頭　〃　蔦の花　〃　苗秀の実　〃
冬の花　〃　通草　〃　蔦の花　〃　蔦の実　〃　苗秀の実　〃
芋萱　〃　鳥瓜　〃　蔦の花　〃　蔦の実　〃　苗秀の実　〃
末摘花　〃　ぬの花　〃　蔦の花　〃　蔦の実　〃　苗秀の実　〃
大根蒔　〃　鬼竹　〃　蔦の花　〃　蔦の実　〃　苗秀の実　〃
稗　〃　月引葉　〃　蔦の花　〃　蔦の実　〃　苗秀の実　〃
四季刈　〃　蔦の花　〃　蔦の実　〃　苗秀の実　〃

稲送 六十七　九 草の花七種 丶　葉 七十七　残る葉 七十八
紅葉 七十九　且ちる 丶　柿もみぢ 丶　桜もみぢ 丶
櫨もみぢ 八十　柞 丶　名の木ちる 丶　蔦もみぢ 丶
草もみぢ 丶　櫨 丶　柳ちる 丶　楓 八十一
色かへぬ松 丶　ぬるでもみぢ 丶　柿の木ちる 丶　銀杏 丶
木の実 丶　桜の実 丶　栗 丶　椎の実 八十二
柿 丶　茱萸 丶　みかん 丶　金柑 丶
梧子 丶　木瓜の実 八十三　榲桲 丶　榠樝の実 丶
梨子 丶　菓李の実 丶　ざくろ 丶　くるみ 丶
桃の実 丶　榛の実 丶　栃 丶　榛 丶
葡萄 丶　水木 丶　枳殻 丶　ならの実 丶
このや 丶　新松子 丶　ひよん 丶　棟の実 丶
きぬかし 丶　南天の実 丶　皂角子の莢 八十五　皂角子の実 丶
うら枯 丶　芭ちる 丶　蕉草 丶　芋の種 丶
龍膽 丶　青麻 丶　ところの花 八十六　おもとの実 丶
萩 丶　茸の里 丶　初茸 八十七　松茸 丶
松露 丶　遅稲 丶　稲掛田 丶　落し水 丶

生類之部

駒牧 卅二　蜩 丶　秋の蝶 丶　秋の蚊 丶
秋の蛍 卅三　蜻蛉 丶　松虫 丶　鈴虫 丶
蚕 丶　つゞれさせ 丶　螽斯 丶　はたはた 卅六
蟬 卅五　茶立虫 丶　轡虫 卅四　蟷螂 丶
藻にすむ虫 丶　くつ虫 丶　稲つき 丶　虫 卅七
蓑虫 丶　いなむし 卅八　田の虫送 丶　しゞみ 丶
螻 丶　鹿の声 卅九　鹿笛の鹿 丶　鹿山家 丶
鹿寄 丶　初鹿 四十　初鳥狩 丶　椋鳥 丶
蛇穴に入 四十九　鶉 四十七　稲すゞめ 丶　鴫 丶
燕帰 五十八　雁 丶　菱喰 五十九　小鳥渡 丶
色鳥 丶　鴨 丶　菜いなき 丶　ましこ 丶
鶺鴒 丶　初鳥 六十　豆まわし 丶　豆鳥 丶
赤とり 丶　日雀 丶　小雀 丶　四十雀 丶
山雀 丶　連雀 丶　鵯 丶　目白 六十一
みそさゞい 丶　木つゝき 六十二　鶺鴒 丶　鶉 丶
鶉の羽 丶　鶉の餌 六十三　小鷹 丶　鷹 丶
川蒸 丶　まこも 丶　下り簗 丶　崩や 丶
落鮎 丶　落鰻 六十四　初鮭 丶　江鮭 丶

鰍 六十四 小鳥ー 丶 沙魚 丶 菜山子 六十七
鳥おとし 丶 流れ 六十八 引板 丶 鳴子 丶
焼鳥 六十九 雀ヶ蛤 七十七 戴勝之条 七十八 紅葉鮒 八十九
尾越鴨 丶 網代守 丶 霧踏茸 九十二

衣食之部

稲穂 十三 枝さげ 十四 稲草 丶 青蕎麦 丶
ことし米 丶 西瓜 丶 蓮の飯 十五 剥鯖 十六
新の菓 廿二 熟麦 四十 焼米 四十一 夜折 五十六
豊酒 七十一 濁酒 七十二 九日小袖 七十八 ゆの色ー 八十二
ゆらき 八十三 新米 八十八 新蕎麦 丶 新酒 丶
濁り酒 八十九

神祇之部

拵結 四 門茶 五 小町躍 丶 籠花 十
逆の峯 丶 六道参 十一 迎鐘 丶 槇買 丶
千日詣 丶 十条参 丶 盆の月 十二 施餓鬼 丶
玉祭 丶 草市 丶 棚経 丶 迎火 十三
瓜の馬 十四 麻殻箸 丶 墓参 十五 生身魂 丶
燈炉 十六 切籠 丶 三井寺女詣 十七 つと入 丶

経木流 十八 迎火 丶 大文字火 丶 妙法火 丶
門火 十九 八幡安居以 丶 解夏草 丶 夜出納 丶
地蔵祭 丶 種屋 丶 因 水村祭 四十四 堀天神祭 丶
小社祭 丶 白髭開帳 丶 敦賀祭 丶 生き放 丶
放生会 丶 津八幡祭 四十五 八幡祭 丶 志賀八幡祭 丶
茂浦祭 丶 宇佐祭 丶 筥崎祭 丶 葵大原祭 四十八
彼岸 丶 御霊祭 丶 業名祭 丶 光信枝ノ祭 丶
秋社 四十九 因 桂宮角力 七十一 舎利会 丶 醍醐祭 七十二
浮石ノ宮祭 丶 鞍馬祭 丶 貴布祢祭 丶 生玉祭 丶
四ノ宮祭 七十三 下鴨ノ祠祭 丶 例幣 丶 御雛餅 丶
住吉角力会 丶 住吉ノ市 丶 宝市 丶 錦市 丶
白河祭 七十四 一条会 七十五 岩倉祭 丶 小倉祭 丶
粟田口祭 丶 一宗祭 丶 勧学会 丶 神田祭 丶
伊勢遷宮 丶 度会抜穂会 丶 忌森ヶ祭 丶 山口祭 丶
英葉祭 七十六 宮縁祭 丶 裳斬女祭 丶 旅爽祭 丶
八幡芸の段 丶 上賀茂祭 丶 平生寺灌頂 丶 大嵯祭 丶
淀祭 丶 天満鉾流し 丶 末情祭 丶 蒿若祭 丶
逆髪祭 丶 北山祭 丶 嵯峨祭 丶 膝聡祭 丶

津村集　丶　埋ノ雲ノ家　七十七　往去の神送　九十三
公事　故麦之部　四十八　鈞迦
楸ノ葉載く三　月白　四十八　鈞迦
秋の家　丶　御燈　七十　重陽宴　四十八　雜奠　四十九
七十一　不怪田餐　丶

俳林良材集

秋之部

雙雀菴氷壺編集

秋

[律]少陰八西方西八遷なり陰者遷て物を成す故に秋と
なす秋八難なり物摯飲して成熟す
[後漢]日西陸なり月西陸なり秋と云[説苑]秋八物うなる心秋天なり清明なり
○艸木黄ばのきなり一説なきこと万物秋よりなり零落して
なくなる事をこのてこれふる事せり[説文]初説宣[年]白藏・昊天・金
商・明素・爽籟・少皞・蓐収

七月

ふみつき・ふみつき・文月・七月・涼月・葉秋・初秋
夷則・葉秋・相月・七月・文月・七月の律なり
蘭月葉秋なり

七月を葉の月と星の月とこの事　藁雄

七月や五よりきの町住居　休太
七月や秋いつせきたてる音　秋之
七月の雨や富士ふもとぬいろ　サ女
七月や降ふる

文月

直江津にて

文月や六日も昔の夜太れば　菊
文月や竹ぶきの姫の子　古兵衛
明る月や書寝のうつり舟ふり　丶梅宝
文月や夜々へてゆく文使ひ　テハ峰
文月や子の種よ蒔る叶の葉　上サ由徹

立秋

文月や露の夜ふかく名ぶ　ヒタチ素月
明る月や何しらゆゆしの宮の色　甘蔗

けきの秋・秋の初風
葉秋

立秋や古仏と呼る合羽の寿　古蕉帆
立秋の日秋涼さびる屋の棟　聚二
あつ秋と笑ふ雲ゆく八ヶ　雲村
掃く先よ秋の立ちそ新　テハ峰楓
秋立ちそ立ちのうえうり叶の涼　丶水休
蜂のうつ秋のうつ光る叶蓮と　楓九

秋さらや庭の清らる池の水　ムサシ　拓榛

さゝ波の浪よ秋さらば法の音　文母

二三寸清水みるまでけさの秋　古　蓑虫

鈴ふり松よ寄りかゝる音の秋　丶　梅宝

宮ばかりよ清人ゝ生絶やせぬの秋　京　九起

秋ごとの孔雀のうゑやきの姫　龍猶

きゝしこゑ松ぞ一けさの秋　蒼玉

七夕の秋沈そえあるゝ白しべ　丹葉

蕊の巣うゝ日のさゝやかや七夕の秋　惟恒

今朝の秋

蕎州の蓋伸ばて寄きの秋　又り　拓石

薄清く再よ寄ゝうけさの姫　トサ　蓑水

伸よ寄松よ寄ゝて七夕の秋　エチコ　古堂

初秋

初秋の寄ゝ松寄ゝ鈴ふる　古　嵐宣

さゝ秋や七夕ふしぶゝ比枝の風　蓑二

はつ秋や宮ばかりる灯よ寄をこのゝ分　トモ　山古

清水寄ゝ初秋の山寄の形　ムサシ　拓佳

寄ゝ秋よ寄ゝ寄の色　エチコ　龍儀

餞暑

新日寄ゝ

秋の初風　秋きたる初風よりはじめて吹このれ　上サ　柏翠

秋風　笠のもとの人のなりやいかなる風　ヒタ　素月

秋の色の沈つゝ近よりてうとき事　トサ　玉屋

楸の葉を戴　夢　そのまゝ秋の日数より楸の葉をこうるを求て

女子日こゝまくあるとさまくの色の形より如あれいかゝ

くゝ手をゝ結ゝまり。楸とまかりも

秋あり

楸　和義　楸葉八相葉なれ世ちかさを居してひをきと云ちてひ

と色を時始日楸葉大ゝて葉ゝ葉ゝ葉ゝ拡るあるよりを楸と云

按葉中ゝゝ葉ゝ葉ゝ葉ゝ名よ

まをを按と云

この秋を色きゝぬるもりや楸の葉　龍將

一葉　ひとゝ八相あり

ゝゝ葉の舟

蕭り来るや一葉より秋のゝゝ　仰風

ゝゝゝ清ちるゝの我相の一葉ゝ　逸閑

相一葉拾ふゝ篇あゝ一葉ゝ　十六　知風

起ゝ出るゝゝの弟や相一葉　ヲ入り　墨湖

ゝゝゝ渡ゝのゝ人ゝ世ゝゝ　ガハ　麦雨

芋ゝ移ゝ心ゝ出きゝ相ゝ葉　イツ　芋宇

怪井戸の水ゝ毛日や相一葉　ヱチコ　仲文

淫ゝ来ゝゝ陸ゝ水八相一葉　ムサレ　湖鶴

柳散

ともすれハけしきなくて桐一葉　下毛 菓阿

見る度ハ風のもつれや一すかれ、　雉路

空さえも揺れハあらしよ柳ちる　奉人雄

西日さす田中の家や森薄る　白川 揆泉

伴のとのき揺や穿り神る　下サ 十條

退座よ家のあたり柳ちる　テハ 唯風

擣待

菓を注来の人よのまり　むかひまつ里まつの
月すがら待つ縫さし　まり

擣待やひとつとて世の越居　機蕎

擣待やそのかわ人の合せ遊し　巨月

擣待やけむり筒茶碗　茅枝子

擣待や名高きとくハ細分限　得季

擣待やうきの思ふぬ人さらば　ムサシ 北去

せりたびよのて歩きる扱ふれ、　花調

擣待や旅の足とる門のうち、　酒東

さつ待やあまり源氏とものまり紀　トサ 卜外

擣待やそのはまそこのうる変　エチゴ 月昇

擣待や手桶を花の清の色　下毛 貞露

擣待の門よ清かす流れつ　ハコタテ 雲几

門茶　[illegible]に亘[illegible]門葉代　清彦

[illegible]の白き八[illegible]門葉[illegible]　古蒙

[illegible]る星て門葉　煙風

北野御手水　六月社[illegible]の[illegible]七日あり

七夕　なさのうひめ・かきのめひこ・さくうなひこ・七夕つめ　ひまつり・星合・星の手向・星の[illegible]・織女　牛女・白鼓・女たなばた・[illegible]・二ツ星・いぬ[illegible]　[illegible]つま

七夕の夜川を下る筏うれ　瑤義子

七夕や飯[illegible]の人[illegible]　清民

七夕や[illegible]の[illegible]　煙風

七夕や[illegible]を[illegible]て彩[illegible]　令

[illegible]つる[illegible]のうら[illegible]め[illegible]　祐之

[illegible]の[illegible]を[illegible]星[illegible]　吉梓

[illegible]の[illegible]て[illegible]宵　下十　呂[illegible]

[illegible]り[illegible]女房も出う星[illegible]の　の簫

[illegible]尾八[illegible]の[illegible]　文星

[illegible]の[illegible]旅人[illegible]星迎　下八　め[illegible]

[illegible]の[illegible]して星[illegible]り　下七　山古

[illegible]の[illegible]の[illegible]星祭　煙風

星合

行き合ひ相ひよくうせる川の波　宝儀

星合ひ月今まさの空のうり　不傳

二ツ星

逢ひ初めぬ昔をたのむ二ツ星　蓬牧子

世のふりあつうふる星　丁毛　宝翠

ひの空北中とあるふれ二ツ行い　菜欣

七月のそらよ照ふる星　葱玉

星の糸

吏ちの糸ちの糸星の糸　キコ　常晴

星の別

中ちうちうや星の別世　テ子ノ　蕉雀

星の別世ちあるよ兎　仲右

彦星

世を星のふう形　エ毛　常晴

しきかれ宵のうち更け仲のうへ　梅契子

表星ちまぬ篇よ年を吟　孤什

ちおかれちこうち星ちき相ちを　下毛　山吉

大空の時彦星のちの形　上毛　山楼

七のうぬ一夜を星の契う事　下毛　松風

星ノ契

松風や星のちきり結ぶ時い　巣欣

月ちうきこうを契て星の意　エチコ　子布

結て逢てふちうまたしき星の空　テハ　梅糸

天の川　銀河・銀漢・銀流・星合の渡伊勢より星の逢ふ夜

遠く見て近くあるべし天の河　仲風

髪ゆる星の行末や天の川　芭蕉

ゆるるとも星は逢ふ夜の天の河　曲水

貴賤ともに筏や行末の川　菅廣

漸の雲も行くべし天の河　下毛　山吉

秋雨のちぬぬあき雨や行末川　上州　春松

月よりふは逢ふ陳の風ふ天の河　楽居

大吉の巡くる星をあまの川　家静

妻迎舟　妻あり舟・恋星の舟ともいふ

烏鵲の橋　曙　ふるとのや織女八天帝のむすめなり一年に一度天の川を渡りて牽牛と逢ふ故に七月七日の夕べ烏鵲橋をかけて織女を渡すと云ふ

ゆるし給ふ烏鵲橋をかけて織女を渡すと云ふ

川を越えて舟をもてこぎ渡る心をもつて歌よみ

きく紅葉を橋よりおちたる葉の橋とよめり又呂の葉

ふるる奇なり

橋とある鵲ふる　いつ　さ　こ　ち　甚角

ふるさよ牛ひこのめこもひ男なり

この夕べ機織らぬうかまめあり

鵲よあり橋の夕べ星田川　甘菜

かなしきの橋やうんとの海やせん　素堂

二星の屋形

秋去衣　増 七夕の異名なり 朗 去衣曳浪霞應濕 [illegible] 万 七夕のいとなみ立て織る布の秋さり衣なりけるを秋去衣とけるなり

名を惜しみ秋去衣この筆　雪柏

人や旅秋さり衣ぬるるなり　樹石

たーまくや秋去衣ぬるるなり　拙誠

乞巧奠（キツカウテン）

彩の糸・庭の立琴・針

[illegible] 公 [illegible] 彩の糸しとは五彩の糸を年ごとのけてそなへおくなり 朗 [illegible] 年ごとに上彩糸をそなへ庭の立琴と云筆の事なり 鹽 [illegible] 調中長中禮の志ゝ魚より出る [illegible] 書をさらしー燈をそなへ [illegible] 日時の糸ひきさらしー燈をそなへ [illegible] 乞巧奠と [illegible] 一切をとゝのふる

[illegible]

星の[illegible]秋家の[illegible]　赤岳

[illegible]の[illegible]風や彩の糸まく　峰風

[illegible]の彩しるしの星の糸　常嶺

立琴や彩しハ[illegible]　月大

針 [illegible] 七夕の針 [illegible] 荆

貸小袖　[illegible]　喰物

[illegible]　一疋

硯洗　[illegible]　乙也

七箇ノ池　[illegible]　祇文

梶の葉　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

梶の[illegible]　乙也

芋の葉の露　[illegible]

[illegible]　芋の葉　文志

芋の葉に露やちるらん風の音　有仁

葉の上に[illegible]　松嶺

芋の葉に露[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　仲古

[illegible]　[illegible]　[illegible]

年渡り　[illegible]　[illegible]

[illegible]　山古

[illegible]　[illegible]

洒涙雨 七日の夕方より六月の雨を洗車雨と云事

[illegible] 洒涙雨 [illegible]

洒涙雨ふるまゝなる時の雨色 仲古

本御門跡ノ籠花 七日仲秋立花

秋風のうしろ姿をのこりけり 嵐雪

飛鳥井家七夕鞠

七夕の鞠や秋帝の [illegible] 蕉岳

逆ノ峯入 東山ニ七月中ニ八月ニ入 聖護院之宮院の門主一世ニ一度ツヽ吉野の奥金峯山ニ登り十日ニ日光宮の秋ツヽを逆の峯と云

山伏ニ登る屬ニ登ツヽを逆の峯と云

[illegible] 有心

[illegible] 峰風

六道参 九月十日ニ高野ヨリ京洛の俗名東山波羅壇の東ニ六道の珍皇寺ニ詣ツヽ聖霊を迎ル為ニ鐘を撞く逆の峯と云ふ

[illegible] 六道参 [illegible] 雪翁

迎鐘

[illegible] 嵐雪

槙買 [illegible]

[illegible] 槙買ふ [illegible] 梅翠子

清水寺千日詣 十日

中元日 十五日の夕方より中元と云

盂蘭盆

[増] うらぼん会・盂供・施餓鬼日蓮の母餓鬼の苦を救うて
菓を供へ十方の仏を供養せしめ給へば母終に食を得給ふ
日蓮仏法をうけ給へば一切衆生仏を得給ふ
をもつて一切の仏大善とのべ給ふ
盂蘭盆経ハ孝子の者此を行ふものハ孝子の
[盂]

盂蘭盆や一日めの夕酒屋町　恩成
うら盆やうふまて切る数寄屋の品　空翁
盂蘭盆や行をいのるよりる婆　松嶺
盂蘭盆や一日あまれ盆ちら　常信
盂蘭盆や此よ盆をうる　世貞

盆の月

餓鬼人ハ出て来る盆の月　サカミ　未熟
よくうるおいをいたる盆の月　下毛　山古

施餓鬼

月ちかぬこのてハ施餓鬼舟　ムツ　壮山

玉祭

聖霊棚・棚経・ごちそう・ぼたもち・ぼたさけ・根芋・ちまき麦
・ちまきの・ぼた・茄子まくる・麻のこうそ
ちまき人の世世よりきまりハ唐より伝のよう　報恩経よりえらう
中ごろの七月ハ唐より盆ちよ伝ハ一ヘまつり給ふ盆経ちる十五日よ
地蔵菩薩人の善悪を分る日ありてく盆士世日尼経をよみく
法の供物をとりおのおのて法大聖流よりまりて餓鬼のこうりゝ我
まくらのり　[事]　よくえんこう　[報]　六十四日和尚よりまりて
十六日年中ハ始るよりゝ供る　[増]

月ハ西ヘ笑ふて玉まつり　蛭子
霊棚や霊のうるかぬ盆菓物　下毛　一龍

[illegible] 葉交
[illegible] 葉居
[illegible] 閉ル
[illegible] 葉芸
[illegible] 立浪
[illegible] ト外
[illegible] 花圃
[illegible] 仝
[illegible] 野

草市

[illegible]

桐經

桐經や藁もたくよる飯たくト外
桐經や係坊主の影もせず 花圃
桐經や多摩を出る所と在 仝
桐經のいとの下文字書 工雪 野

迎火

迎火や煙りよもぎ艾の先 孤峨
日のくるよ毛虫を焼く山家哉 馬芸
むしの火もうせて淋しき今夕 唯仏

鼠尾草

蘭 [illegible] 云

嵐尾草の高しる寺中 出二日 万枝子
[illegible] 文種
みて萩や傳を笑てさせるる 八丑浪
嵐尾草やをちらの時ひとり 素月
[illegible] 孟 [illegible]

枝豆

枝豆を採て茹る事は[illegible]

嵐尾州の産物は日を経る程悪し 出羽

[illegible]井戸水は苦味多し 摩氏

[illegible]州の産物 世負

枝豆は未別の[illegible]長れば 壹長

[illegible]豆は熟手次の生 この里 丙異

枝豆は[illegible]腐しめ長の[illegible]きは ムサシ 叢月

枝豆は枝ごと買ふ事 翠風

[illegible]豆は[illegible]の出 龍成

枝豆（サヤ豆）

枝豆を採て帯り[illegible]

[illegible]は生り[illegible]枝さけ ムサシ 里水

裏戸の[illegible]根芋 畑 梅葉子

根芋を[illegible]根芋は 弧什

[illegible]味は[illegible]根芋は 下毛 思成

[illegible]の物[illegible]れ 巣欣

小料理[illegible]れ根芋は 武蔵 め水

[illegible]段の[illegible] 雪阿

青蕎麥

青蕎麥は[illegible]

[illegible]蕎麥は[illegible]

巣欣

里水

弧什

思成

巣欣

武蔵

雪阿

波城

秋米　秀子子

瓜ノ馬　甘藻

西瓜　古玄求

麻売箸　毎月　麦賀

麦売

卜サ　花月

何人の作く神ーをのら　梅左

切口のよき八結ーー　文里

をのうきにその花をのう　仲友

おくき　卜サ　蕊祇

墓　桑　増七月初先祖の墓　毎月　蕊祇

とこのやそうちあーーるも七月十五日より先祖の墳の城およ

墓もあり

蕊をうむ人もあるーー墓参り　毎月　麦史

墓のきりてうを　町の墓参ー　市猿

鶴うよ　提ーのーー　墓　翠嵐

ゆうよ　松音の　髪　卜サ　方東

をうきるのうを　墓参り　ー　玉坂

おく寄ー人のうへ　ーのう　嘯風

[illegible] 墓 [illegible] 文里
[illegible] 墓 [illegible] 仲友
[illegible] 墓 [illegible] 橘左
[illegible] 妻 [illegible] 巣俣

生身玉 蓮の飯・さば鯖 [illegible] 父母 [illegible] 人 生身玉 [illegible] 飯鯖 [illegible] 蓮の飯 [illegible]

[illegible] 生身玉 [illegible] 隆風

旅のうへおもしろい [illegible] 生身玉 蓮飯

蓮の飯 [illegible] 蓮 [illegible] 糯飯 [illegible] 蓮の飯 [illegible] 鯖 [illegible] 鯖 [illegible] 祝儀

[illegible] 生身玉

刺鯖（さば）

[illegible] 蓮の飯 乙也

[illegible] 蓮の飯 [illegible] 月大

[illegible] 蓮の飯 [illegible] 下サ 長岳

[illegible] 刺鯖 [illegible] 出 [illegible] 刺鯖 [illegible] 角高

[illegible] 刺鯖 [illegible] 天 [illegible] 橋泉

[illegible] 刺鯖 [illegible] 上サ 素竹

[illegible] 刺鯖 [illegible] 鯖 [illegible] 刺鯖 [illegible] 家 一亭

判轄や料理のあれおもひつき　素石

燈炉（トウロ）

燈籠とも・切子とうろ・舟とうろ・高ひとうろ・盆とうろ・茶筅とうろ・翠帯小さ毎は門辺にも灯ともす

今も降雨のけきや高とうろ　知風

燈籠や灯をうつま銭このまま袖　露村

此やまて身語りあふとうろ哉　甘菜

切籠

見る人もあるまいさびし鉤とうろ　ム廿 峨夜

遠くこの曙につく寺の切籠かれ　テ八 雪而

雨ふ戸をともて寐まも切籠哉　、河暁

生極の見まさるふてき切りおりれ　卜外

踊

きりこともいふなり

淋しんてるの明りまき切籠のかげ　ム廿 青圃

切籠ふく風ふもいのちやうら表　エ十 常清

鉤うて見ると顔のくる切りおりれ　巣欣

小町をとり・きそをとり・大坂をとり・大ふねをとり・まあるきをどり・あけをとり　操り町人をとりゆくを一の事

打角と寐ての起まをとり哉　エナ 蕉堂

そく哭ハ拍子ある多をとり　上廿 由僊

草歌はその夜ハ表ぬをとり輩　卜廿 庭花

三井寺女詣　十五日よ社つる八女人あまた詣ふ参する也ゆるし侍り

三井寺へ出て日の暮れ女子達　一亨
晩鐘の余韻や女の三井詣　素力
老ぬれば被きのらの三井詣　巣次
三井寺やそろへハ揃ふ女子ども　優く

衝突入（ツトイリ）

雜談抄ニ曰ク六法ニハ法ニ遠具ヲ云ヒ八重家ノ嫡狼藉ニ妻ヲ云ヒ根義ニ見ルヲ云ヒ近ニ近勢ヲ云ヒ山田ニ作ヲ云ヒ家敵ニ家ヲ云ヒ敵ニ敵ヲ云ヒ貴敵ニ貴ヲ云ヒ仏事ニ仏ヲ云ヒ僧ニ僧ヲ云ヒ法ニ法ヲ云ヒ世ニ世ヲ云ヒ七月十日ヨリ今ハ強ヲ云ヒ

法ニ入のうし流向ろ亟り姫　下毛　一義
衝突入や人を分るる押せ合ひ　分黄

法ニ入や出口中の知るる安ケ一敷　燈風

經木流

十六日摂州四天王寺の東経坊のあるじ龍井の永正の経木の表ニ法名を書テ一銭ニ売ル経木ニ法名を書テ一銭ニ売ル経木ニ法名を書テ一銭ニ売ル功徳を修シテ法名を書テ

流一切舟ニ乗ル経木ニ法名ル　永年

送火

年中行事十六日・施火黄・門火・大文字の火・盂蘭盆の火・舟形の火
抄法の火紀略ニ曰今夜東山清水寺の山上義を以大字を点ス
望の観ニ点ス長ニ点ス一説ニ云宝所系譜第の日遠
横川第三葉三葉ニ点ス長ニ点ス一説ニ弘法大師の御ル宝所ニ
長ニ点ス此月六日義ニ点ス一説ニ弘法大師の御ル宝所ニ
切つこのる無数十家ノ家ノ家ノ月申刻各伐数ニ家の薪を積ミ
山上ニ積ル元大文字一ノ火ニ点ス百五十間係五尺ニ点ス一説ニ
ニ点ス一堆ニ数四百八十四家各薪ニ点ス終ニ後日の役ニ点ス
往因新ニ火ニ点ス点ス点ス陽の壮観ニ点ス小山ニ点ス法

の二字を点ず――或八角長山角形の火を点――ゆるしハ河さきの山
ゆるぎ形の火を点ず伝お家ゝの山岳英系理法人きゝゝい集ノ
て拍席の縁ゆゝひよ搖の枝破ゆ公ハ壹を焼く長を聖灸の
逆り火ゝゝふゆゝと施火ともいふなり

おくりややうし法さのの秘法　古文邪

送り火やう――燒仮の作巳り　金仙皮

大文字　山の端の宮ゆゝ色火文字　古嵐雪

妙法の火　妙法の火を見ゝ京――ゆゝうれ　芭蕉

妙法の火や麻を枝ゝるゆゝる　下サ　芭月

妙法の火や　猛の牧の逆さゝゝ　乗居

妙法の火ゆゝる末の梢ゆ春　巣欣

妙法狐火の明ゆゝさゝ山杉の礼　優く

妙法の火ゆゝ芝ゆゝ明りゆゝ　上サ　梅須

きゆゝゝせめ世ゝうゝ　扱ふ門火ゝ明　雪峨

門火

八幡安居頭（ヤハタアンゴトウ）　十五日今八十二月十五日あり形ハ新橋を赤ゝ云西洋比丘
を居ゝいふゝ　新ゆゝ

解夏草（ゲサウ）　術古の伝家夏の日縁ゆゝ　云鋼　吉祥艸ゝともいふ

夏書納　家夏艸ゝ家ゆゝ深墨ゆ世ゝ　巣欣

花火　茅の家ゆゝのゆゝる天安ゆゝ礼　唾枝

試ゆゝる伝ゆゝ花見ゝ春　上花　清水

丹波の空間よりくる火の孔　心星

霧ふかのきく竹末をきけるあさぼらけ　乗居

地蔵祭

廿四日壬生の地蔵ちかきのあり

廿七日仏の日狭山寺より薄の種屋といふ者の家の前に仮屋を

穂屋

設けるあり赤き豚風まき種屋作るかの狭山寺の祭八月十七夜なり

作くるハ祇園の祭のあり

一あり

いうしへの形さまを種屋作り　由几

来廣さきに長をまるや種屋作る　和吉

初こ村八神風ものの種屋作り　優く

相撲

増 おそらく法のひ　万 壹お撲　公 辻まさひ　おそ　法の紙法

の人をめ一つのつめて七月より相撲の世ちていひて天子の四時を

まひをめ世紙の世ちあり　年数 寛平七年より壹お撲を四時　公

季吟集ちるよ相撲の秋ちあるの八七月のあ　ちあ

ちあ一今の世ハいつもまひ八伝ちて折ちのせてふ辻まひ

といふてふ秋ち

見るあり

よき家をまちくよ第一蘭力代　花法

和ちて寝笑ちもまひ　俳風

夕月や二百十日の人通　星　上タ子　素月

城の巣ち家ちちち二百十日の家　テハ　空山

暮るにや二百十日の五時ち　茅美

露

白露・うら露・波の露・袖の露

来ぬ人をまつ夜にこぼるゝ露の音　抱蓼

遠山の杉の木すゑや雲の中　イワ 松宇

艸深る江のほとりを露の零りて里　サカミ 竹山

むら〳〵雲よりさそふ艸の露　ムサシ 波路

木のまの庵の灯や露の中、　稲佳

朝露のきらめして白し蛛の糸、　四楓

落けりめぐる星や数しや露の玉　エチコ 常晴

霧

霧の海・霧の色・稲の霧・霧の立人・霧雨

同じ霧立さゝる

霧の奥や山にわかれて山つゝく　サカミ 中岐雄

遠る灯や霧に暮込る町　ムサシ 菜暁

夕霧や今まで瑶の残る山　是秀

稲妻

稲妻をくゞりて降り出す大粒　芳全

いなつまや出山のくゞれる波の鞍　渭承

稲つまや傍を通りて雁る笠の元　篁風

いなつまや壁にちらつく一文の耳　ムサシ 仙友

残暑

深雲の影地に動く残暑かな、　旧左

さつと降る雨に残暑の薄り売　ムツ 不及

朝夕の秋の雲に槃よ袖の露　素外

嵐の実は明の月に岸の袖の露　嵐風

秋のゆく日を惜まるる暮さうの　上毛　白藍

雲とのそり時雨さとめや初嵐　祐之

布さらさこそ風清うて初ほしし　永年

初嵐者の宮の巣の袖の秋あり　下野　麓系

清さ世さ鶏の新月さや初嵐、　庭花

月こそ月の月よ入さ山の雲　め雪

身よ入や山の寺の海の暮　葉居

初嵐

身よ入

分る雲も中樹のうらふるの寺　不由

身よ〜もとい世おろせ〜笠の雨　嵐風

分よ入や寺のこの秋の雲　一雪

冷

ヒヤ、カ

元禄く・しやつき・しやくしを壁をふまへてしる麻の雨れと

いつる祖翁の作にしやくしの秋影あり壁をしる麻の影の白と

思ひ深しと芭蕉集明影集にしやくしの影の白

とあり清友歌へ入世〜ちを後法師を見るに彼影更よりこれを世遠

子ゆきの〜言よ新ることいつるものの清水人生く帝

寂蓮のことのさうち新と後悔あり先撰の集を閑せ〜ゆきを道

思ひこと〜ものふ

ものあるの世

世やこのよ来ちこの空の清まちり　影左

清のよなり竜宮の元帝〜社　巣欣

[illegible] 陸雨
山路の陸子を通せ麻さめく ムツ 一宣

初テ涼シ 箕 [illegible]

[illegible]

語風あり

雲よ雲[illegible]

扇置 [illegible]

扇おく・扇[illegible]

扇おくとふも日和もあく 雀 嶺掃

扇おく雲[illegible]雨二日 トサ 葉弓

扇おく人ふ性[illegible]あり 鬼 葉居

江のうへよ昼を過せる扇おく 素山

扇おく日[illegible]の雨 巣欣

[illegible]る扇[illegible]吸ひ[illegible] 巣交

[illegible]の伸もせ[illegible]扇置 文種

[illegible]ふ[illegible]扇置 嶺掃

帷の別

木槿 月 [illegible] 増

[illegible]木槿の[illegible] 田鼓

巣よ[illegible]を[illegible]木槿代 尾村

[illegible]より[illegible]木槿の礼 樹石

女郎花

古 むかしならへしの一時をさめるとし平城天皇の御時小野頼風と云人ありけり八幡に住む人なり京に女を契りておもひけるにこのふく来ぬ事ひさしかりしゆへに女うらみて放生川に身をなげてけり頼風これをきゝてあはれと思ひその川に行て見るにかの女の衣ありこの衣をぬぎすてゝ女郎花となりぬ彼花に近くよれば花なびきそむき退けばもとのごとくになりぬ頼風もともに川に身をなげけるとなむ今女郎花の塚志水の東五町ほどのうちにあり 事

はなやかな花の名にも隠し女郎花　渭風

雲霧の淀の…を…まへし　鬼将

搔あつる二口の世にも女郎花　東居

根八たつの草ともくもりなきをも見ぬへし　武 蕉正

草花

起きさまの八垣の一つやむ木槿　京 梅通

咲と散る朝顔ならて木槿垣　蓮湖

咲くのまま見らぬ垣の木槿かな　唯風

興ある日の出や草の花　下毛 文宗

さまよふ手に八ちの…かりの草の花　下サ 蕉水

草花やとかく向てや志めし花ゝ　蕎琉

よそものきえて絶えや草の花　山子

草花や見かへりの雑草塚　武 旧路

鶏頭や草花起きて井戸の元　ヱチコ 左儀

荼花（オホトヲバナ）

男郎花

藻 白き花ありを伝へしと云へり女郎花 花よりは白きあり花をみるものとしてもいへり

清らかなる女の姿きゝ花や男へ　蓮葉子

伸ぶる事て風情をとゝへ　一竹

余の竹よりは立ちまさり男花　一亭

伸てこゝろのひて咲る男へ　三郎

清らかなる花ゆき花や男郎花　有雪

あるこゝろなるのハ恋をとゝへ　楳堂

恋慕よんゆうるゝをとゝ繁　斜岩

なるこゝろのきゝ井戸さゝやに男郎花　四楓

朝顔

春牛花

彩の中に影の数は寄しも　秀子

葬の法あるゝ寄よりなるのあ　祐之

彩の花の一ゝ咲めいをきれ　量仙

朝貌百日紅ゝ花ゝ　嶺鬼

いきこのゝ花ゝ寄て寄ふ　師風

萩

[illegible]　海鷗

葉の秋[illegible]を咲う半生　葉屋

いきのかぎりの日毎の[illegible]　極圓

[illegible]萩・小さき・[illegible]の萩・[illegible]

[illegible]枝を

[illegible]萩をふくつめり　蕃　京郎

[illegible]のいろまつ[illegible]や萩の[illegible]　雪嶺

[illegible]萩や[illegible]　[illegible]　蓼里

[illegible]の[illegible]　[illegible]　[illegible]

萩殿

[illegible]の萩　[illegible]代

[illegible]萩の[illegible]　清民

清涼殿の[illegible]

白葉・[illegible]

葉の[illegible]　巨白

葉の[illegible]　乘山

[illegible]の[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

葉の[illegible]　[illegible]　[illegible]

葉ゝ俤ゝ笑を咲けハ葉葉ゝ　玉雪
葉の表に古人をあすゝ端居ハ　湾哉

藤袴

[illegible]
後[illegible]ゝ云一名[illegible]
[illegible]ハ匂ひのふゝ　義袴　荔山子
花ゝゝも葉ゝ表の[illegible]　義袴　梅雄
星人ハ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　市徒
[illegible]名を笑ふ[illegible]　義袴　胡雄
行る日ハ[illegible]ゝ　下サ　雪光
[illegible]ゝ　義袴　義正

芭蕉

根ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ芭蕉ハ　ムサシ　不由
故の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　文里
雨ゝの根ハ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　洒象
[illegible]ゝ芭蕉の葉ゝ　雪丸
行ふゝ芭蕉ゝ[illegible]ゝ小[illegible]ハ　イヅ古　漢山
[illegible]ゝ[illegible]ゝ　テハ　哇風
[illegible]ゝ[illegible]ゝ　[illegible]　[illegible]
破[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　エチコ　布
[illegible]ゝ[illegible]ゝ芭蕉ハ　吉洋

耳うゑ芭蕉よりうる雨の音　トサ　文耕
蝶越よりあをさゝせ絨の雲の乳、　方象

小車の花　小くるまや寺にしらるゝ庭　波路

桔梗　ちらかるけうの山ふき
山風を蒼こうゑ一桔梗　淳風
桔梗ゝゑ色ひとつ日のしをれ　芳州
新しうめ人ゝ色ゝきゝゑ　十六　樹石
青つゆ牛よりく桔梗うれ　トサ　庭芝
蒼こうゑ行くきゝゑ　文雄

狗子草　秋雄をはくらいぬの尾よりうり
栗の穂出ゝ
ひのきあゝ雄いゝ犬ゝ犬る草　角の女
馬の首乃少しゝ犬る草　桃従
雄を抜ゝ伸るゝゝゝいぬ草　波路
蔚ぬ雄のゝゝゝ犬る草　樹石

荻　さゝ荻・荻のゝ風負虫云い勢のゝゝ荻八草のゝゝれ
八雄ゝ雄をむゝくゝ花秋ゝ
・下あゝき
・新端ゝ荻
ゝゝくゝゝゝゝゝ荻の色　号雲
雨ゝゝゝ秋ゝゝ荻の穂　袁村

散ても次手よろしき萩の露　上毛　心星

油漬の灯影ハひかりておきの色　テハ　採泉

萩ふくや草を吹わけし夜の露、　春山

岸寄りし汐ハ濡てあきの露　下サ　庭花

矢口より出る花もちや萩の影、　嵐琉

相撲草

花あるハ鐘あり其種の実を残さしめおもく張て是むまきひとつへあかきをお互引て勝負し児童の戯とせし其名よ付て秋季とするものならん

朝夕の露をおくや角力草　ハコタテ　絵蓮

星寄りのふりえかり角力草　下サ　卜外

蕃椒

細し葉の風よわく生へる草ぞ、　庭花

おく霜の露をもつのしや角力草、　花月

辛きうに寄りこゆるや唐からし　蒹葭子

秋風にまぎのこしそ唐からし　□篇

花よりも見をまさる也や蕃椒　老芸

寒ふ行し日数も立ぬ唐辛子　古ヤ　梅理

表々も色まさる花の行り唐からし　卜外

秋ふかくこゆる畠や唐からし　雅好

まくてゆ行る色きこまの唐からし　翁

曼珠沙花　本名石蒜彼岸花　山野墳墓の辺に多し　葉を出さず仙人掌に似てやせたる茎の頂に六弁赤色の花四五月の頃開く　俗死人花と云　本草　秋月

りしほ　ゆかしく　ゆかしく　秋より曼珠沙花　高代女

月のこゆのさしてもいる海ゆかん　ゆさけ　蓼村

經義を国ふ蓼根や曼珠さけ　六甘　波洲

曼珠しき庵のうしろや曼珠沙花　雲山

蓼深く分入塚や曼珠沙花　卜外

うつくしき白の色や曼珠沙花　峰風

仙翁花　石竹　本草　年中行事　秋紅紗花茎の高さ二尺葉旋覆の葉に似て一反秋花を出す　石竹　花の如し　四園

解石竹　種を蒔て生ずる又石竹の種の如し　中国細子　四月の名　秋花

ちる紙をあめの葉の蓼けさや仙翁花　樹石

藥師草　牙切草　図　芍薬山院の朝より唐国時形と云て薬の生業を精しく其の本草一唐傷を冠るもの一の生業一名

を云て出産を守るより唐国時の唐医是を云と　しかるに秘して伝ずの家なりしかるに出産を

時形怒て産守を忽切数を長ずるより牙切草の名ありと云まで

叶一切の産名種ありて牙切草の名ありと云まで　効ありと云まで　ひろく人

ちる

弟切草　俗中国人牙切草　叶一切産の法の人　巣欣

観音草　六七月茎を抽て小淡黄色を出す　巣欣　大薬麦門冬に似て小淡黄色を出す　種を出す

益母草（ヤクモサウ）　藁粧

翁草

茗荷ノ花

茗花（ヤイトハナ）

秋　三十

鉈豆

蓮ノ実飛

仙月

イツ乙郎

蓮の実飛やあき文の置日和　ムサシ　竹中堂

ちりまうや明日もちる浪の飛つく音　トサ　卜外

蓮の実飛やのとけ八坊の留守　修風

糸瓜

時の人も寺日も寺のもめ糸瓜かな　花海

よし有も実代の簗りや糸瓜棚　甘菜

生るまかる恩ちや垣の裏表　龍友

瓢

打き慕をあいふせうや種ふくべ　竹風

桃ノ實

桃の実や夜とくちの子味の影　菱岳

木瓜実

木瓜の実や表八つに止まかし　佳笛

蜀漆ノ花

手に志あし千むの山の蜀漆の花　優之

槐ノ花

葉も花も文字に似合ふ槐かな　種好

早(ワサ)田(ダ)

早稲の実やいはまで花のうち　芳州

室のうち

室のちかや早勢穀を急くせし種油を用ひ早稲苗を植うる　その地面をちかくに求長しうるなり
是米種を急くし墨くる精気物に何りて地にいてちかるなり
成長しうのつまらしもはちつきをもちのちやけせしに室を
八糀を筋ちも慶を室にいりふ室ふり米種を筋まも慶をなすに
よりてもろしき水室ちう【篗】すまし

飛くまうつむく室の早稲の穂　下毛　思珠

思ふ何りや室のちやまの貢く里　拙謙

稲の花

稲のうる根もやかで稲の花　毅将

殘蚊

鯛（ヒクラシ）

秋ノ蟬

秋ノ蝶

秋ノ螢

蜻蛉

せきれいあさきや秋をちらし心　氷心

まつよする秋の笛や命のうち　嵐雪

雨の木葉おとさ秋のひかる哉　也像

蜻蛉のとまりて見ぬや薪日和　古　米葉

蜻蛉やとまりてぬす舟の竿　京　赤甫

日を経ても一雲南きさんかの風　種好

寒暑飛ぶ夕暮さらし心蜻蛉哉　松株

松虫

虫のうち西の風のよくに似て声やさし四五分斗の虫なり柳色にして長き觜あり声をチンチリリンと云

くつわむしともいふ俳諧には出さず

茶の銘思ふ

まつ虫のあんなにいはれて黒茶碗　古　嵐雪

まつりまつ虫のさへの寸法箒哉　虎角

鈴虫

虫のうちまつ虫に似て薄黒く背の大さなるもの也尾在之毛有り色も長き觜有り声ハリンリンリンと云又

と云金鈴虫ともいひ板声ありやうなり

声ハやさしき虫をのみ耳よきも　正子

蟋蟀（キリギリス）

蟋蟀仲秋より暮秋にいたる十月まで人家の内に有又板にて鳴是をあはれむつゞりさせよと聞かさねかゝさせよといふ声ありてそのおとさに似て所は切さるゝやうなく寄り羅黒なし其後も所る小虫有り古き御堂なし

昔の夜八毛ぬさり切りくさ　是剛

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

蠶斯（ハタオリ）　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中のぎ　[illegible]

絡緯の二字をもの[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

蝰（カウロキ）

茶立虫

轡虫

蟷螂（カまきり・いぼうり・いぼうり・まいまい・ぼうり・まいまい）

螂蜋（かまきり）

いかりもの　蟷螂　京邸

蟷螂の卵　蟷螂　俗名

蟷螂の卵　蟷螂　俗名

この卵の中に蟻あり　西日記　梅雨

藻に住む虫

増　我が国の藻に住む虫　古藻　藻の中に蟻あり　八雲抄

藻の中に蟻あり　仲　藻の中に住む虫　小海先

藻の虫　文種

藻の虫　庭訓

蓬[illegible]

[illegible]

蓬[illegible]

[illegible]

管巻虫（クダマキ）

[illegible]

稲蓑

[illegible]

[illegible]

稲つき[illegible]

稲蓑や[illegible]

稲つき[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

虫

[illegible]

[illegible]の[illegible]ハ[illegible]一[illegible]虫の毒 イツ 乙訓
[illegible]ハ[illegible]一[illegible]宿 テハ 雲山
掃[illegible]の[illegible]の虫、 灌河
[illegible]虫[illegible]の[illegible]十條 トサ
蓑虫一の[illegible]の[illegible]一[illegible]
[illegible]虫の[illegible]ハ[illegible]の[illegible] 修[illegible]
蓑虫や[illegible]の[illegible] 紫居
[illegible]の[illegible]の[illegible] 表山
蓑虫や[illegible]の[illegible] 修水

蓑虫

蓑虫の[illegible]や雨[illegible]の月[illegible]り 雅月子
[illegible]の虫[illegible]ハ[illegible]の[illegible]一[illegible] 壽山
[illegible]ハ[illegible]の[illegible]の[illegible] 由儀
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible] ト毛 一[illegible]
[illegible]紙[illegible]一[illegible]の[illegible]一[illegible] 若[illegible]
[illegible]ハ[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible] 当志
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible] 素力
[illegible]一[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible] 保友
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible] 玄調

各蟲

田虫送ル

[illegible]

川沿ひ田の面に[illegible]きこのれ　文種

炬[illegible]ぬ　[illegible]や田の面ある色　一茶

[illegible]の家も[illegible]の面に[illegible]　月羅

[illegible]回を[illegible]め　[illegible]　煙堂

[illegible]し　[illegible]　玉雪

[illegible]　[illegible]　種好

[illegible]　[illegible]　心雪

鰹（ケイラ）

鰹[illegible]の尾[illegible]　[illegible]味[illegible]

[illegible]三四尺[illegible]の九[illegible]浦[illegible]

蚯蚓鳴

[illegible]物[illegible]家大阪[illegible]

東西[illegible]

[illegible]る　[illegible]　鰹の味も去る　[illegible]

處暑ノ節

七月の中あり

鷹鳥ヲ祭

[illegible]鷹[illegible]を[illegible]の[illegible]

[illegible]

用て[illegible]を行ふ[illegible]は[illegible]

鷹[illegible]

鳥屋出ノ鷹

[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]屋出を[illegible]鷹の[illegible]　宋弘

松風[illegible]　[illegible]鷹の[illegible]屋出[illegible]　峰堂

鷹ノ山別

山鷹の巣を立をいとまなり

[illegible]

[illegible]

二三羽ん輪ふ鷹や山の巣　素山

山の巣を立て鷹の[illegible]　雪渕

いさ知らず山を[illegible]鷹の声　[illegible]

鷹打

[illegible]鷹を網[illegible]をいふ[illegible]

[illegible]人煙を[illegible]

[illegible]

[illegible]

近ふ[illegible]三物伊[illegible]

[illegible]紀[illegible]山と云鷹打[illegible]

[illegible]

鷹[illegible]　[illegible]

鷹[illegible]坂をくめり　来[illegible]

初鷹

初鷹[illegible]

初鷹の[illegible]

初鳥狩

[illegible]　雪[illegible]

鳩吹

[illegible]山[illegible]八[illegible]人[illegible]

とも腐をとる
なめしも云り

[illegible]　葉雅子
[illegible]　葉葉子
[illegible]　呂仁
[illegible]　雲翁
[illegible]　古崇
[illegible]　一龍
[illegible]　卜外
[illegible]　祐之

熱麥（アツムキ）

焼米

焼米や富士合掌の一法のうち　東旅
やき米や東の出雲まつる逢遥　文星
蜻蛉や獨の家に長き影　卜井
やき米や新そば屋にて出す　東有
焼米やりんの上なめ秋を売る　上井　雨月
麻殺や月と蟋蟀よりぬ秋の宮　公成
秋あつや秋よりあつき空の色　ユチコ　花像
月ゆく雲　樹のうちや　秋の雲　只麦
秋の日秋まつりさく入江の礼　上年　清永

秋ノ空

秋ノ日

秋の日秋はまさしく田の風情　双岳

秋の山　番場の背中は色づく秋の山　楽居

宮毛毛の山　時雨ふる時の山　一龍

宮くれと雲のふる里　秋の山　金七　雲朔

秋の水　秋の水　平下　湖雲

日の暮れつるまで秋の水　峰月

旅の袖をぬらすなよ秋の水　古文

秋の水漢路西船をうかべる　玄来

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雷須郡
櫻塚邑
茅里堂